

## 基本調査

調査地点は図1-1及び図1-2に示した7点である。調査地点は対象種（シラヒゲウニ、クルマエビ、ミナミクロダイ）の生態から、藻場及び干潟の発達していることを条件に設定した。各地点で1～3本の調査線（150～600m）定め、環境及び生物調査を行なった。

### 1 環境調査

#### 1. 地形及び藻場

図-2に各調査地点の地形と藻場の状態を示した。黒塗りの部分が藻場の繁茂状態で、太いほど被度が高い。測深は10m毎に行なった。以下に各地点の概況を示す。

#### (1) 島尻

600mの調査線1本を設定した。一様に平坦な地形でアマモ類の少なくなるあたりからやや深くなる。底質は砂で、礫は少ない。アマモ場はほとんど途切れることなく続く。マツバウミジグサが優勢でところどころウミジグサとウミヒルモが混生している。ごく岸寄りにはコアマモがあり、500m以降はベニアマモとリュウキュウスガモが多くなる。調査線上2ヶ所で採取を行ない海藻の湿重量（葉部のみ）を測定したところ、それぞれ、 $290\text{g}/\text{m}^2$ 、 $270\text{g}/\text{m}^2$ とやや少なかった。構成種はマツバウミジグサ1種であった。

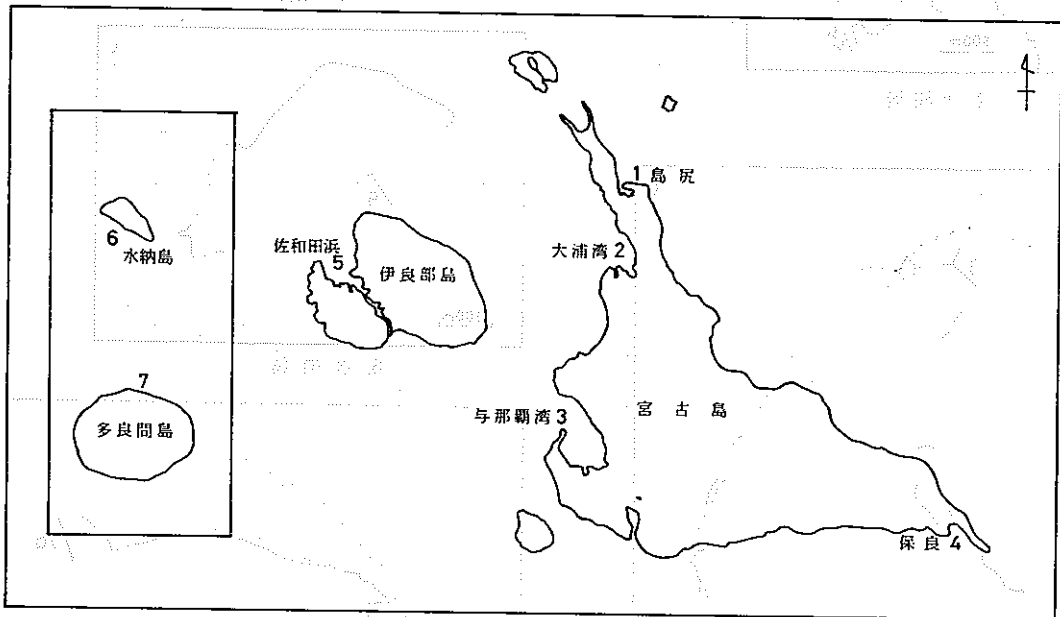
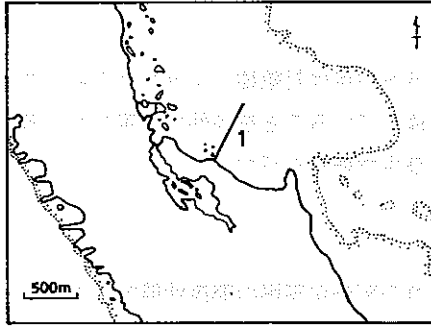
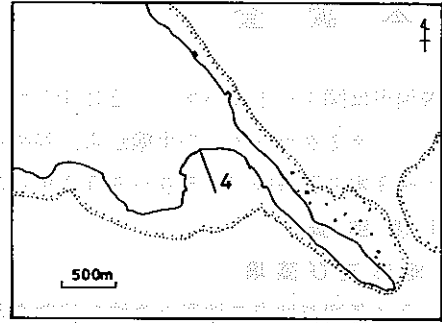


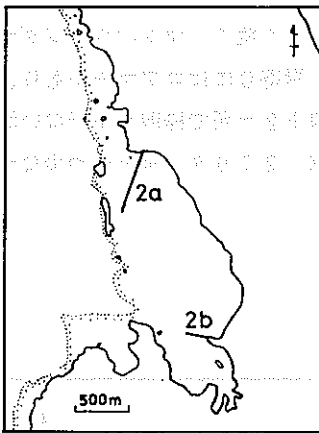
図1-1 調査地点



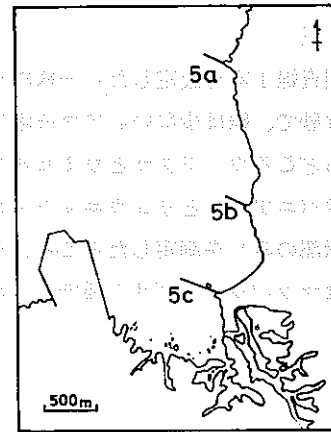
1. 島尻



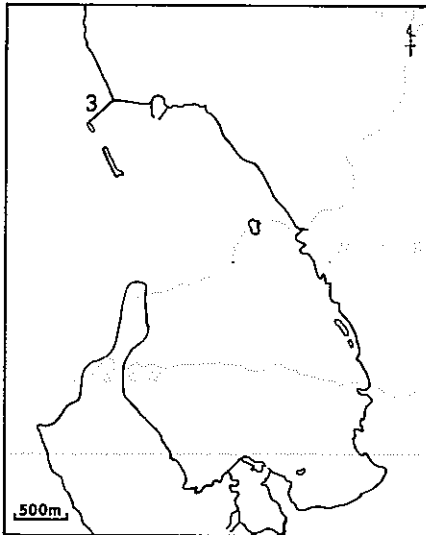
4. 保良



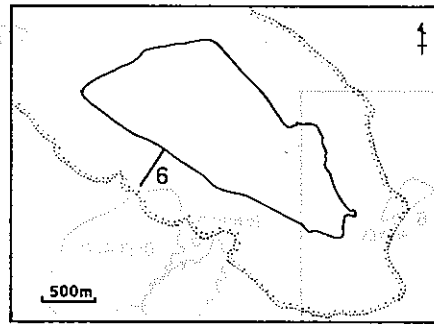
2. 大浦湾



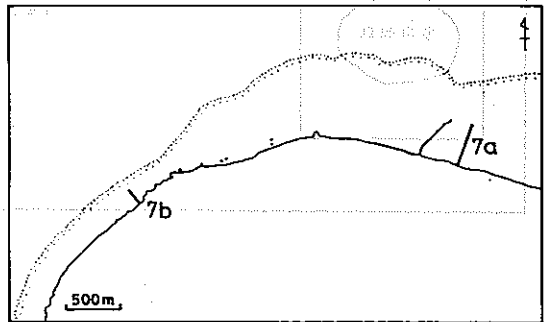
5. 佐和田浜



3. 与那覇湾



6. 水納島



7. 多良間島

図1-2 調査地点

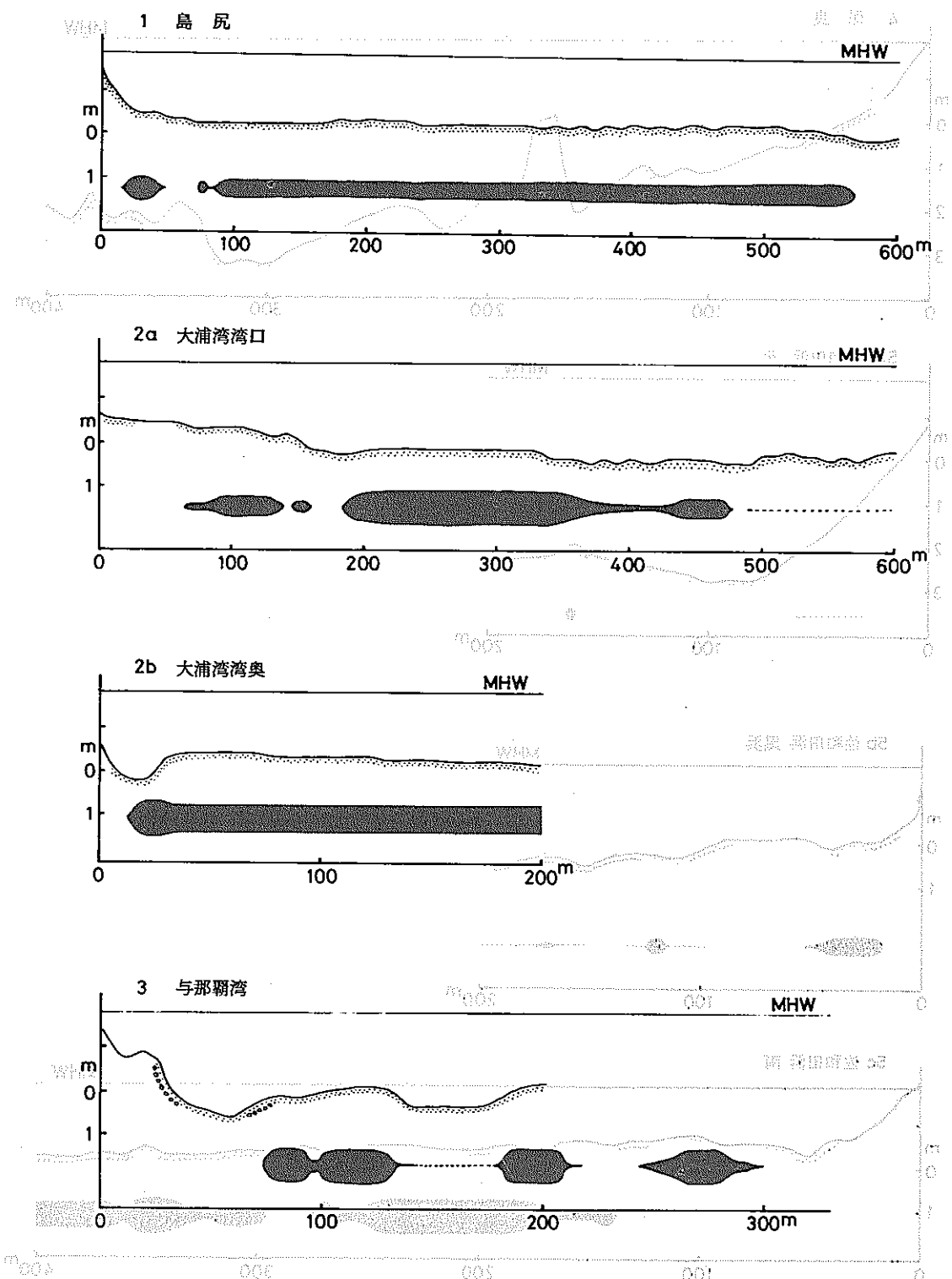
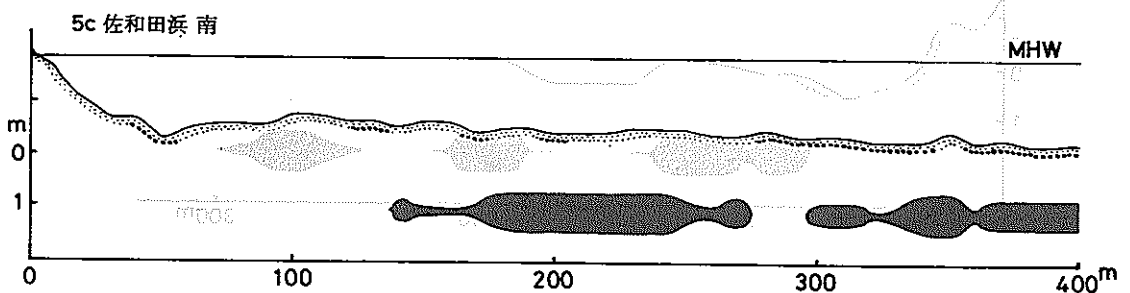
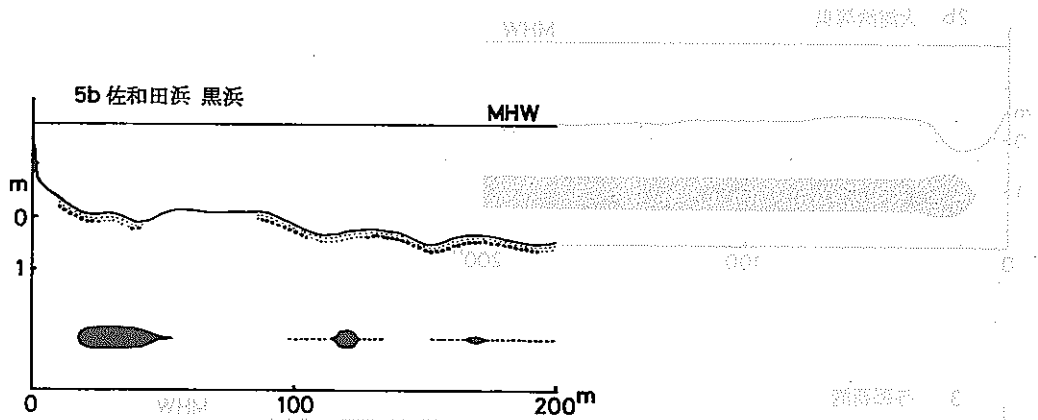
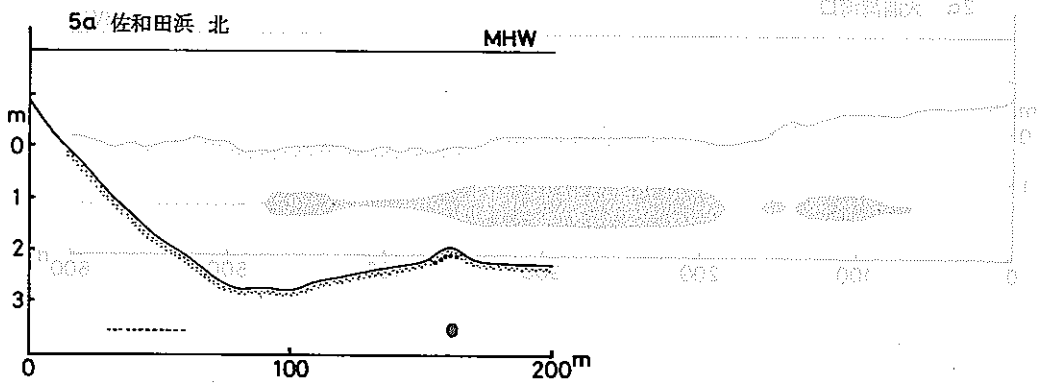
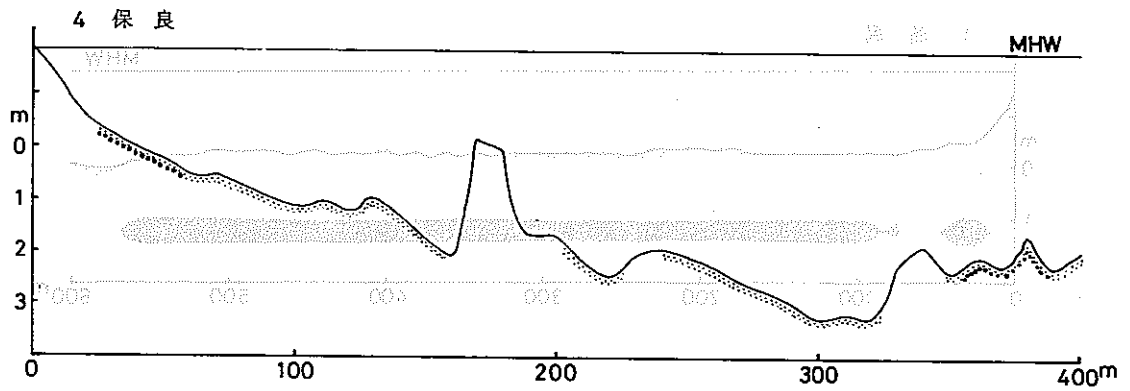
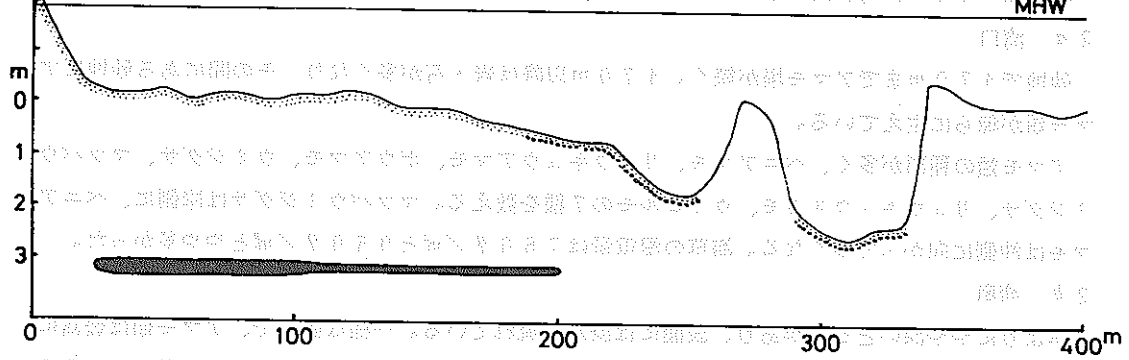


図2 地形及び底質と藻場の状態

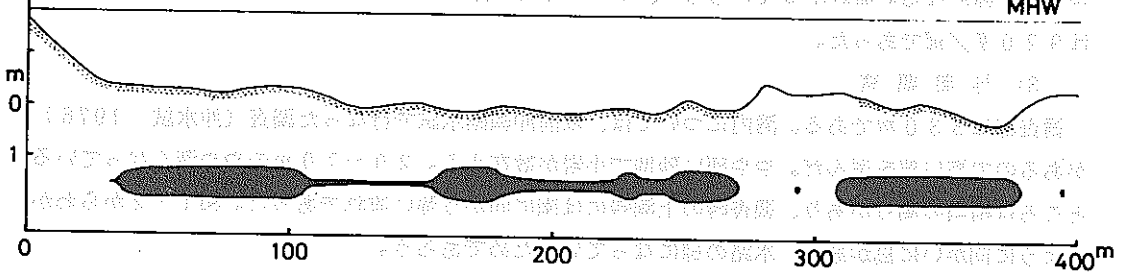


海砂の採取と分析の報告

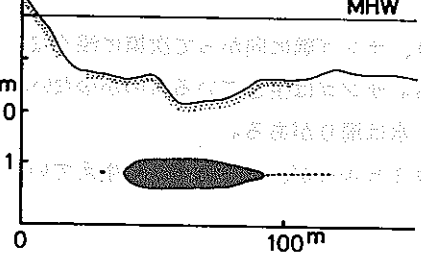
6 水納島



7a 多良間島 北



7b 多良間島 西



## (2) 大浦湾

湾口部600m、湾奥部200mの2本の調査線を設定した。

### 2 a 湾口

砂地で470mまでアマモ場が続く。470m以降は岩・石が多くなり、その間にある砂地にアマモ類が疎らに生えている。

アマモ類の種類が多く、ベニアマモ、リュウキュウアマモ、ボウアマモ、ウミジグサ、マツバウミジグサ、リュウキュウスガモ、ウミヒルモの7種を数える。マツバウミジグサは岸側に、ベニアマモは沖側に向かって多くなる。海草の湿重量は760g/m<sup>2</sup>と950g/m<sup>2</sup>とやや多かった。

### 2 b 湾奥

岸よりにやや深いところがあり、表面には淡水が流れている。一様な砂地で、アマモ類は豊富にある。初めはウミジグサ主体で、30~180mはマツバウミジグサとウミヒルモが多い。180m以降は種類が増え、ベニアマモ、ウミジグサ、マツバウミジグサ、リュウキュウスガモ、ウミヒルモの5種になる。流れが少ないらしく、アマモ類の表面にはラン藻が繁茂している。海草湿重量は920g/m<sup>2</sup>であった。

## (3) 与那覇湾

調査線は330mである。湾内については、以前沖縄県水試で行なった調査(沖水試 1976)があるので湾口部を選んだ。やや硬い砂地で小岩が散在する。20~70mのやや深くなっているところは相当の濁りがあり、調査時の上潮時には南に向かう強い流れであった。図1-2からわかるように向かいに島があり、水路の様になっているためであろう。

藻場は3ヶ所に分かれてあり、リュウキュウスガモが多い。海草湿重量は420g/m<sup>2</sup>、1,560g/m<sup>2</sup>でかなり密度の濃い部分があった。

## (4) 保良

調査線は400mである。300mまでなだらかに深くなり、サンゴ礁に向かって次第に浅くなる。小石まじりの砂地が続き、200mまでは泥を被っている。サンゴは生きているものが少ない。河川の流入があり、西側の崖からも小滝のように落ちている。水は濁りがある。

深いためアマモ類はほとんどなく、リュウキュウスガモとウミヒルモが、ごくわずかに生えているのみである。

## (5) 佐和田浜

a、b、c 3本の調査線を設定した。長さはそれぞれ200m、200m、400mである。

### 5 a 北

80mまで急深で以後平坦かやや浅くなる。砂地で小岩やサンゴが点在する。

藻場は160mに小規模のものがあるだけであとは岸近くに疎らに生えている程度であった。海草湿重量は160g/m<sup>2</sup>と少なかった。

### 5 b 黒浜

100mまで平坦で、そこからやや深くなり再び平坦になる。サンゴ塊や小岩が多く砂地が少ない。従って藻場が少なく、リュウキュウスガモ1種が小規模な藻場を形成している。海草湿重量は810g/m<sup>2</sup>と170g/m<sup>2</sup>であった。